



## 平成28年度入学式を行いました

（気仙沼高等技術専門学校）

4月7日、当校において、気仙沼市の副市長や気仙沼公共職業安定所の所長ほか4名の来賓の方々をお招きし、入学式を行いました。

新入生の自動車整備科8名、オフィスビジネス科7名、溶接科1名の合計16名が未来の技術者を目指して、日々の職業訓練のスタート台に立ちました。

田中誠校長は、16名の入学を許可するとともに、「技能・技術を磨き、積極的に社会と関わりながら復興の先頭に立つ人材となってください。」と式辞を述べました。

新入生を代表して、オフィスビジネス科の千葉友梨香さんが「産業界の要請する技能者となるため、技能の習得と人格の向上に努める所存です。」と宣誓しました。

当校は、昭和37年4月に開校し、今年で55年目になります。これまでに3,600人を超える卒業生を輩出しており、各業界で活躍しています。



（新入生代表宣誓）

## 官民一体となり介護人材確保へ

（気仙沼保健福祉事務所）

1月29日、当事務所において『気仙沼圏域介護人材確保協議会』が設立されました。効果的な話し合いを行えるように、気仙沼介護サービス法人連絡協議会、気仙沼公共職業安定所、気仙沼市、南三陸町及び当事務所の5機関という少数で構成されています。



（気仙沼圏域介護人材確保協議会の様子）

第1回の協議会では、まず求人・求職の現状や行政の取り組みについて説明し、次に当所で行ったアンケートやヒヤリング調査の結果から、事業主の主観として介護職91人が不足していると考えられていること、実習の受入時や新任期の業務指導のあり方について配慮が必要であること、また、国の調査から、介護の仕事に就く動機はやりがいを求めていることが1位であるのに対して、離職理由の上位は”法人の理念”，”人間関係”であること等を報告しました。

そして、事業主からこれまでの取り組みが紹介された後、今後の取り組みとして、新規就労者の獲得と現任者の離職防止のために介護の魅力伝える研修

会を実施することや、事業主が人材の集まる経営マネジメントを成功事例から学ぶこと、インターネットやSNSを活用した情報戦略等が話し合われました。

それを受ける形で、当事務所では2月26日、快い介護研修会を開催しました。受講者からは「素敵な介護の仕事を続けたい。」といった感想が寄せられました。

### ホタテガイ養殖の採苗が行われています

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

ホタテガイ養殖には、稚貝を途中まで育てた「半成貝」を北海道から導入し、9ヶ月以上養殖して出荷する「半成貝」養殖と、地元の海で稚貝を採苗して2年以上養殖し出荷する「地種」養殖の2つの生産形態があります。県内では、早期復興のため「半成貝」養殖主体に復興が進んできましたが、管内では、種苗を他産地に依存せずに安定した生産ができるよう「地種」養殖の生産割合を増やすことを目指した取組が始まっています。

当試験場では、ホタテガイ採苗適期の情報提供に加え、地元で稚貝を採苗する「人づくり」・「組織づくり」を通じて、この取組を支援しています。

管内では、例年4月頃から幼生(ホタテガイの赤ちゃん)が海水中にプランクトンとして現れます。その動向を追跡し、付着直前の大型幼生(0.3ミリメートル程度の大きさ)が観察され、試験採苗器に幼生の付着が始まったタイミングで採苗作業が始まります。今年は5月の連休頃から作業が始まり、管内唐桑地区を中心に作業が本格化しています。

今後は、種から成貝まで、オール「宮城県産」のホタテガイが増えていくことが期待されます。



(採苗器(網地を中に入れた玉ねぎ袋)の垂下作業)



(採苗器に付着したホタテガイ稚貝(約0.5ミリメートル))

### 南三陸町の輪ぎく生産者を対象とした 輪ぎく新規導入品種の栽培講習会を開催しました

(本吉農業改良普及センター)

南三陸町の輪ぎく産地では、近年、気象条件の変動に適合した新品種を導入し、品種構成を見直す動きが見られています。当センターでは、品種情報の共有化を目的とした現地検討会の開催等、農協と共同で支援活動を行ったところ、昨年引き続き、今年も複数の生産者が同一の新品種を導入して栽培に取り組むことになりました。

そこで、3月2日に南三陸農協花卉部会を対象に開催された栽培講習会で、当センターが種苗会社とともに新品種の特徴と管理の要点について説明を行ったところ、生産者間で活発な意見交換が行われ、今年の作付けに向けて理解が深まった様子でした。



(講習会の様子)

今後、町内のきく類生産組織は、南三陸農協花卉部会、南三陸農協リアス小菊栽培研究会、南三陸町復興組合「華」の3組織で「南三陸農協花卉生産者協

議会」を設立し、協議会として共同活動を行っていく計画です。

これからも、関係機関との連携を図りながら、当協議会の活動を支援していく予定です。

### 震災後の南三陸町ほ場整備地区で 六番目の担い手組織誕生

(本吉農業改良普及センター)

現在、農地復旧の一環で、ほ場整備事業が管内10地区で進められています。

このうち南三陸町廻館工区(工事面積 15ha)で、3月15日に「廻館(まわりたて)営農組合」の設立総会が開催されました。

本組合は、ほ場整備地区の担い手であり、水稻部門の共同販売経理を行う集落営農組織として営農開始します。

担い手の地区外への流出や高齢化の進展、未作付農地の増加などの課題を乗り越え、この廻館営農組合の取り組みが新たな営農モデルとして地区に定着することが期待されています。

気仙沼・南三陸地域のほ場整備事業は、平成27年4月から7工区で営農が再開されました。しかし、工区全面積の引渡、営農再開を果たした工区は少なく、当センターでは、全面積での営農再開、経営安定に向け、地域営農体制の構築を支援していきます。



(廻館営農組合の総会の様子)

### 気仙沼・本吉地域園芸振興研修会、 みやぎ農業未来塾を開催しました

(本吉農業改良普及センター)

3月17日、本吉公民館で施設野菜生産者や新規就農者の病害虫防除技術向上を目的とした、園芸振興研修会、みやぎ農業未来塾を開催しました。

管内では、いちごやトマトなどの園芸施設が新たに建設され、施設野菜に注目が集まる一方、害虫の薬剤感受性低下、薬剤耐性菌の出現など病害虫防除が課題となっています(いちごのハダニ類、きゅうりのコナジラミ類、うどんこ病など)。

そこで、若手生産者からの「病害虫防除を基礎から見直したい」という要望に応えるとともに、薬剤抵抗性管理の考え方を普及するため、研修会を企画しました。

研修では、農薬メーカーのデュポン(株)担当者から、薬剤散布の基礎や、対象害虫の世代を考慮して薬剤を選定し、交差抵抗性(※)発達リスクを軽減させる「ブロック式ローテーション」についての講義や、農業・園芸総合研究所から病害虫防除の研究成果報告がありました。

天敵の導入や、育苗期の効果的な防除など、今後の防除に活用できる情報が多く提供され、生産者からは「育苗期の防除を見直したい」、「今年は早めに天敵を使用したい」という声が聞かれました。

当センターは、今後も生産者の技術向上を支援していきます。

(※)交差:ある薬剤に抵抗性や耐性が発達した病害虫が、その殺虫剤と類似性を持つ他の薬剤に対しても抵抗性や耐性を示すこと。



(未来塾の様子)

## ビーンズくらぶ移動総会が行われました

(本吉農業改良普及センター)

4月12日、南三陸町の女性グループ「ビーンズくらぶ」の総会が、惣菜メニューの研修を兼ねて、登米市中田町にある「精進スイーツ 結び」で行われました。

ビーンズくらぶでは、今年の1月から豆腐と惣菜の製造・販売が始まり、加工部門が立ち上がりました。売れ行きは好調で、昨年生産した豆を使い切ったため、今季の豆腐製造は4月いっぱい終了しました。今年度は、加工部門で不足する分を地区の農家に生産委託し、遊休農地をさらに活用する計画です。

総会后、登米市東和町にある(株)北上食品工業を訪問し、飯塚社長から豆腐作りについてのアドバイスをいただきました。メンバーは、自分たちの作り方を説明しながら、社長からのアドバイスを熱心にメモしていました。

当センターでは、今後も農山漁村ならではの特性を活かした加工品づくりを支援していきます。



(惣菜メニューの研修の様子)



(北上食品工業訪問の様子)

## グリーン・ツーリズム情報発信研修会を開催しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

2月29日に、気仙沼合同庁舎において、グリーン・ツーリズム実践者等を対象とする研修会を開催しました。

「グリーン・ツーリズム情報発信研修会～魅力を効果的に伝えるために～」と題し、講師には、グリーン・ツーリズムにおけるモニターツアーの実施や商品化の助言、施設の連携を提案されている、株式会社ゆいネット代表取締役 稲葉雅子氏をお迎えしました。今回は、情報発信の基本から、効果的に魅力を伝えるポイント、インターネットを活用した事例などについて教えていただきました。

参加者は、興味深く先生の話聞き入っており、「誰にどんな情報を届けるのかという基本を学ぶことができた」、「ホームページのリニューアルに役立った」、「説明がとてもわかりやすかった」と、研修会は大変有意義なものとなりました。

今後は、それぞれの事業・取組において、研修会で学んだ情報発信のポイントを活かし、気仙沼・南三陸地域のグリーン・ツーリズムの魅力を最大限に届けられることが期待されます。



(熱心に聞き入る受講者)

## 南三陸町新庁舎建設のFSCプロジェクト全体認証による施工がスタートしました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

南三陸町新庁舎建設において、南三陸森林管理協議会(会長:佐藤久一郎氏)が、昨年度取得したFSC森林管理認証(FM認証)対象森林である同町歌

津地区町有林から供給されるFM認証木材による施工を推進するため、建設工事の木材工事全体について、公共事業としては全国初となるFSCプロジェクト全体認証による施工を行うこととなりました。当施工にあたり、協議会と当事務所が認証取得に必要な「規約及び施工マニュアル」の原案を作成し、関係者と協議を重ねました。そして、4月27日、「南三陸町新庁舎建設FSC認証材利用プロジェクトグループ」設立総会が開催されました。



(町新庁舎用木材の伐採状況)

総会では、グループの代表者を、「銭高・山庄特定建設工事共同体」とし、「南三陸森林管理協議会」が当事務所の支援のもとに事務局として実務を担うこと、施工管理マニュアルの確認及び認証に要する経費負担等を協議し、参画事業体の承認を受けた「規約及び施工管理マニュアル」を審査機関に申請し、全体認証がスタートしました。



(設立総会における協議状況)

プロジェクト認証は、新庁舎建設に関係する全ての工程に関して申請内容に基づく審査を受け、施工完了後に認証を取得することとなり、長期間に渡る取

組となります。当事務所では、「復興のシンボル」としての新庁舎の完成に向け、協議会等の関係者への支援を行ってまいります。

### JF志津川支所(戸倉海域)がASC(水産養殖管理協議会)による国際認証を取得しました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

JF志津川支所(戸倉海域)では、自然環境や地域社会に配慮した、持続可能な養殖業を推進する国際的な認証取得に向けて、養殖施設数を震災前の1/3に削減するなど、品質の改善を目指すとともに、環境負荷を減らす取り組みを行ってきました。

平成27年11月12日・13日に国内外の審査員による本審査が行われ、平成28年3月30日に国内で初めて「ASC」の認証を取得しました。

「南三陸戸倉っこかき」として、4月2日から、東北と首都圏のイオンやイトーヨーカドー等で販売されています。

今後は、4年後の東京五輪など、国際イベントでの提供や海外への販路拡大が期待されるところです。



(南三陸戸倉っこかき)

### JF唐桑支所青年部が全国青年・女性漁業者交流大会で農林水産大臣賞を受賞しました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

全国の青年、女性漁業者が日ごろの研究や実践

活動の発表を通じ、知識や情報を共有するとともに意見を交わし、漁村の活性化や担い手の確保育成等に繋げる「第21回全国青年・女性漁業者交流大会」(JF全漁連主催)が3月1日、2日の2日間に渡り、東京都で開催されました。本大会は、「漁業者の甲子園」とも称され、北海道から沖縄まで、全国から39の青年・女性グループが参加し、JF唐桑支所青年部が宮城県を代表して出場しました。

JF唐桑支所青年部では、児童が効率的かつ効果的にカキ養殖を学べる場を提供するため、唐桑小学校と協働し学習プログラムを開発・実践してきたこと及び震災後も取り組みを継続してきたことが評価され、最優秀賞に相当する農林水産大臣賞を受賞しました。

なお、今回の受賞により、11月23日(勤労感謝の日)に開催される農林水産祭における天皇杯等の候補となります。



(賞状を手にする唐桑青年部の小野寺部長)

### 水産加工業における人手不足に係るアンケート調査を実施しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

当事務所はハローワーク気仙沼及び管内高校と連携し、水産加工業者に対しては従業員の充足状況や求人予定などについて、一般求職者及び高校卒業予定者に対しては希望する職種や勤務時間などについてアンケート調査を実施しました。

なお、水産加工業者では、震災前の水準まで回復するに当たって「販路の未回復」、「生産施設等の未復旧」と並んで「従業員不足」がボトルネックになっていることが窺われました。今後、生産施設の復旧がさらに進むことを考えると、人手不足はますます深刻化することが予想されます。

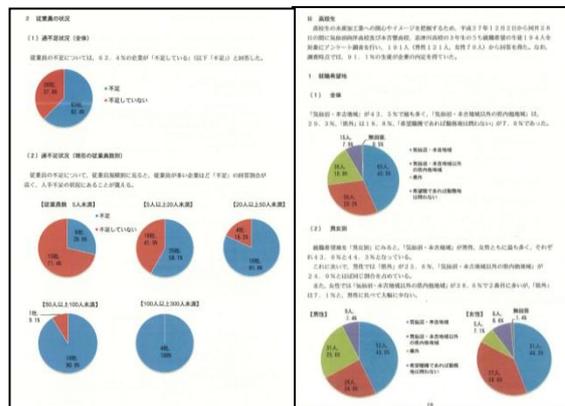
このアンケート結果は、当事務所地方振興部のホームページに掲載しております。



(大会看板の前で)



(講演の様子)



(アンケート調査結果)

## 気仙沼・南三陸の水産加工業イメージアップDVDを制作しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)



(DVDジャケット)

復興が進む気仙沼・南三陸地域の水産加工業では、将来を担う人材の確保・育成等が大きな課題となっています。そこで、当事務所では、水産加工業への就業意欲を喚起することを目的に、管内の水産加工業を紹介するDVDを制作しました。

収録時間は約 30 分で、現在、希望者に配布しております。収録時間約8分のダイジェスト版も制作し、動画サイト(You Tube)に掲載しておりますので、ぜひ、御覧ください。

ダイジェスト版はインターネット上で視聴できます。

気仙沼・南三陸の水産加工業  検索

## 第1回気仙沼地方水産加工業人材確保 連絡調整会議を開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

3月8日、当事務所において、気仙沼・南三陸地域の水産加工業における人材確保に向けた対応方策の検討や情報の共有を図ることを目的に、管内の水産加工関係団体及び商工団体、行政機関等による連絡調整会議を開催しました。

人材確保に関する意見交換では、「現場を直に見てもらふ機会が必要」、「イメージアップに努力しなければならない」、「求職者は賃金より勤務時間の方が関心が高い」などの意見が出るなど、活発な情報交換の場となりました。



(会議の様子)

## 気仙沼地方水産加工業者セミナーを 開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

3月14日、気仙沼市内で「気仙沼地方水産加工業者セミナー」を開催しました。

当日は、機器メーカーやスポーツチームなど経営者として豊富な経験を有する公益財団法人みやぎ産業振興機構のシニアアドバイザー白幡洋一氏から、「気仙沼地域の水産業振興への細やかなメッセージ～水産加工業の復興に向けて、その課題と方向性～」と題した講演をいただきました。この中では、「マーケットイン型の販路開拓」、「労働条件・処遇の改善による人材の確保」等の事例紹介があり、参加者は熱心にメモをとっていました。



(講演を行う白幡氏)

## 販路開拓支援セミナーを開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

3月9日、気仙沼市内で「販路開拓支援セミナー」を開催しました。

このセミナーは「震災で失われた販路の回復」や「販路の開拓」を目的に開催したもので、セミナー講師に株式会社電通ビジネスクリエーションセンターの金井毅次長をお招きし、「ローカルプロダクツのポテンシャルを考える」と題した講演をいただきました。また、特定非営利活動法人経営支援NPOクラブが行う「販路開拓マッチング事業」を同クラブ理事の助川英治氏から御紹介いただき、その後は同クラブ所属の専門家と地元企業による「販路開拓マッチング個別面接会」が行われました。



(株式会社電通の金井氏による講演の様子)



(販路開拓マッチング個別面接会の様子)

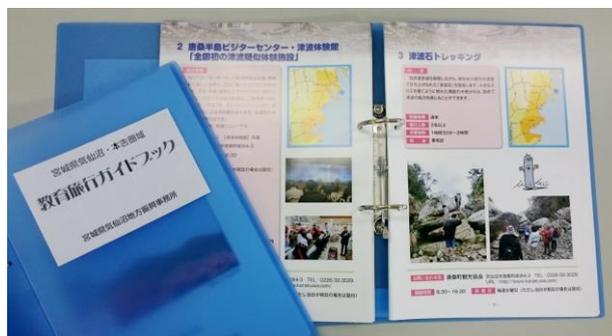
引き続き、第2部として、株式会社ライフブリッジの阿部千賀子氏による研修「インバウンドのいろは研修」を行いました。

### 管内教育旅行ガイドブックを制作しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

当事務所では、管内への教育旅行受入の拡大を図るため、管内教育旅行ガイドブックを制作しました。

このガイドブックには、管内で体験できるメニューについての紹介や、教育旅行におけるモデルコース、万が一、教育旅行先で地震等が発生した場合の対処法や避難経路等が掲載されています。



(制作した教育旅行ガイドブック)

### 気仙沼地方インバウンド推進セミナーを開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

3月7日、気仙沼市内で「気仙沼地方インバウンド推進セミナー」を開催しました。

このセミナーは2部構成で開催し、まず、第1部として、大阪学院大学経済学部准教授の松野光範氏を迎え、留学生が当地域にモニターツアーで訪れた際の率直な意見等について講演をしていただきました。